

反映状況票

(単位:百万円)

府省名	調査事業名	調査主体	取りまとめ財務局	5年度予算額	6年度予算案	増▲減額	反映額
文部科学省	(10) 各事業におけるステージゲート等の実態調査	本省	—	42,839の内数	43,318の内数	478の内数	—
事案の概要	長期間にわたる研究開発事業では、成果発現の不確実性が高い等の特性があるため、ステージゲート（以下「SG」という。）等による目標設定や進捗管理、中止を含めた計画の見直しなどの評価が適切に実施されていない場合、目標達成見込みの低い研究開発が継続され、予算の効率的配分が阻害されるおそれがある。 そのため、研究開発事業において適切なSG等の評価制度の導入を徹底し、新たな課題に対する予算の効率的・効果的な活用を行う事を通じ、研究開発事業の質の向上につなげていく観点から、平成29年度から令和3年度予算の公募型の研究開発事業におけるSG等の評価の実施状況について調査を実施した。						

調査結果の概要及び今後の改善点・検討の方向性

1. 研究開発評価の実施状況について

SG評価は、研究開発マネジメントにおいて有効とされる。この効果を発揮させるには、事業における競争原理を適切に働かせる必要があるが、事業により運用の差が見られることから、事業開始段階におけるSG評価の通過数等の設定等を徹底すべきである。

事前評価を厳格に行っているにもかかわらず、中間評価が進捗管理にとどまり、研究の質の向上に活用されていないおそれがある。そのため、SG評価が望ましい事業は、SG評価による評価を徹底するとともに、中間評価による評価を行う事業は、中間評価の枠組みを活用して、課題の終了・減額等を含めた計画等の見直しが徹底されるように、厳格に運用すべきである。

2. 文科省評価指針について

前回の指針改定以前から、海外の動向把握ができていないことから、次期改定に向けて、適切に調査・分析を行うべき、また、足元で研究開発を取り巻く状況が大きく変化しているにもかかわらず、その動向等を踏まえた文科省評価指針の改定が行われていないことから、改定を速やかに検討すべきである。

その際、省庁間の施策の整理等に資するよう、内閣府（科学技術・イノベーション推進事務局）や関係省庁の動向も踏まえたものとすべきである。

（参考）文科省評価指針：「文部科学省における研究及び開発に関する評価指針（最終改定 平成29年4月1日 文部科学大臣決定）」の略

反映の内容等

1. 研究開発評価の実施状況について

予算編成過程において各研究開発事業の実施概要に関する個別の検討を行った。その結果、一部事業において新たにSG評価を導入し、通過数等の設定を行うことを予定している。

研究開発事業評価を取扱う科学技術・学術審議会研究計画・評価分科会において研究開発課題の評価の改定について審議を行った。研究開発課題の評価に関する留意事項として、研究開発事業の効率性を評価する際、施策見直し方法の妥当性の観点にSGが含まれることを明らかにするなど、評価の改善についての検討を行い、評価の基本的な考え方を改定した。

2. 文科省評価指針について

文科省評価指針の最終改定時から研究開発評価の周辺状況は変化しており、諸外国の現在の研究開発評価を巡る状況や研究開発評価の実態と課題を把握する必要があると考えられるため、指針の改定に資するよう、令和5年度の文部科学省の委託事業において、諸外国の研究開発評価に関する実態調査を進めている。